

尊敬の反対

中 一

「人権を尊重する」という言葉をよく耳にします。その言葉の元になるのは、「他人のことを尊敬すること」だと私は思っています。尊敬とは、誰かのことをすごいというように認めて、その人を敬ったり、憧れたりすることです。では、尊敬という言葉の反対の意味はなんでしょうか。調べてみると、「軽蔑」という言葉が出てきました。

「軽蔑」という言葉の意味は、「見下したり、ばかにしたりすること」など他にも似たような意味がたくさん書いてありました。「軽蔑に値する振る舞い」「いかにも軽蔑した笑い方」など軽蔑という言葉がいろいろなところで使われていることにも気付きました。ネット上にどんなところで軽蔑にあたる場面があるのか調べてみました。調べたところ、ある人が学校で体験したことが書かれています。クラスの友達のBさんが、他の友達のAさんに、「太っているくせに足が速い。」というよ

うなことを言ったそうです。この投稿したある人は、Aさんは確かに肥満体型だけれど、足が速いということの間違っているとは思わなかったそうです。でも、Bさんがもらったその言葉に違和感を覚えて、それをBさんに伝えようと思ったけれど、何とえばよいのか分からずその話は終わってしまったそうです。この違和感の正体は何だったのでしょうか。それはBさんが言った「太っているくせに。」という発言でした。いろいろな場面で耳にする「○○のくせに」という言葉です。

私も学校内でそんな言葉を何回か聞いたことがあります。「頭が悪いくせに」「できないくせに」など、他にもたくさんあると思います。テレビやインターネットなどでも「くせに」という言葉がたくさん溢れています。「外国人のくせに」「障害者のくせに」などの言葉です。人はどうしてこんなに、「くせに」という言葉を口にするのか、疑問に思いました。

Aさんに、

「太っているくせに足が速い。」

と言ったBさんは、見た目で判断して、太っているから走るの遅いだらうと決めつけていました。

でも、Aさんは実際足が速くて走るのがとても得意だったので、決めつけていたBさんはそれに納得がいかず「くせに」という言葉をつけて言ったのだと思います。自分の中にあるプライドを保つために、「くせに」という言葉を使い、相手を認めず、軽蔑してばかりにすることで、自分の方ができると思っていたのだと私は思いました。心の中で、「自分よりできない劣る人間」という印象を勝手に作り上げ、自分はその人よりできると思っていたけれど、その人が自分と同じことができたり、自分よりもできてしまったり、自分にはないものがあつたりすることがとても嫌で許せないのです。私は、そのような考えではだめだと思えます。「くせに」という言葉を使うだけで、ときには相手を傷つけてしまうかもしれないからです。自分によいところやできることがあつて、そうでないところやできないこともあるのは、当然だと思います。そう考えれば相手にもよいところやそうでないところ、できることやできないことがあつて、どちらも同じでよいと思います。このように思えば、軽蔑をしたBさんもAさんもそれぞれあてはまつて、「くせに」という言葉を使わなくて

もよかつたし、投稿した人が違和感を覚えることもなかつたと思います。

Aさんを軽蔑したBさんは、あとになって、その言葉について話し合ったそうです。Bさんは、「他に言い方はあるのか。」と聞き返してきたそうです。すぐに、その質問に答えることができず困っている、Bさんが突然、

「Aさんは足が速いでいいんだ。」

と言ったそうです。私もそうだと思いました。「くせに」という言葉を使わないだけで、その言葉がまったく違う意味になりました。「太っているくせに。」など余計なことを言わなくても、「Aさんは足が速い。」という思ったことだけをそのまま言えば間違いなく伝わるし、相手も嫌な思いをせずすむと思います。

人には、よいところも、そうでないところもあります。周りの人のその特徴を認めて付き合っていくということも、身近な場面で人権を考える第一歩になると私は思っています。